

「総ぐるみ」新聞

NPO総ぐるみ福祉の会事務所 港南区日限山4-39-10 日限山ハイツ101号室
 お問い合わせ先 電話045-846-8850、FAX045-3707272

西洗ワイワイ夏祭り NPO模擬店に参加しました

寺島住江

西洗ワイワイ夏祭りが、1日だけの開催になつてからは、当日のお天気模様がとても気になります。

今年は、まだ梅雨も明けない7月23日(土)の開催でしたが、幸いにもお天気に恵まれたお祭り日和でした。でも前日は雨。その雨の中、テント張りをしてくださった方々、ありがとうございました。

当日は、暑さもそれほど厳しくなく、大勢の方々が参加してくださいました。私たちの「NPO総ぐるみ福祉の会」は、日ごろから手芸仲間が、コツコツ作りためた布草履・布バック・日よけ帽子・エプロン・ペットボトルカバー・アクリルたわし・ラベンダーの匂い袋・靴下カバー・六角椅子・もんぺ・お手玉・畳のへりを使った高級バックなど多数の品揃えをしたほか、皆さんから提供していただいたリサイクル品も販売しました。

また、隣のテント(写真の右)では福田恵一さんが中心になつて焼いた「鯛焼き」を販売しましたが、これが大人気。材料の吟味や下ごしらえなど苦労したそうです。

その他の模擬店は、「日限山小学校PTA」の焼きそば、「子供会」のフランクフルトソー



セージと鶏五目ご飯、「いぶき会」の綿菓子とタコせんべい、「菓子処いしかわ」のみたらし団子、「ヤングスター野球部」の焼きとり・水あめ・生ビール・ジュース・お茶・豚めんなど、どこも大賑わいでした。

午後2時

ごろ、樽神輿や子供ねぶたの練り歩き、大勢の子供達が参加して、にぎやかにワッシヨイ、ワッシヨイと出発。その子供達が出来場に帰り、拍手で迎えた後に、模擬店の販売が始まりました。日よけ帽子ともんぺ

を買ってくださったNPO会員のお一人は、早速購入した衣服に着替え、販売スタッフに見せに来てくださいましたが、とてもお似合いで大拍手でした。

スタッフ一同が一致協力して販売に当たった結果、お陰様で大勢の皆さまに買っていただきました。

NPO総ぐるみの販売品をお買い上げくださった地域の皆様に紙上を借りて心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

◇ワイワイ夏祭りの由来

雨宮 初枝

今年の夏まつりは、いつもより涼しくて、快適でした。3年前に自治会の班長で参加した夏祭りの折、「納涼祭ではなく、もっと若々しい名前、西洗ワイワイ夏祭りにしようではないですか」と提案された、今は亡きMさんを思い出しました。

私は手芸品の売り子を担当しましたが、日頃はめったにお会いできない人にお目にかかれたり、近所の子供達と言葉を交わすことができたりに、嬉しかったです。

隣のテントで汗をぬぐいながら鯛焼きを焼くスタッフの姿や、元気な売り声に背中を押されて、私も販売に精を出しました。

素敵な作品を数多く製作してくださった手芸部の方々、また購入してくださった方々、ありがとうございました。

◇子供さんとの楽しい時間 沖 高子

お祭り当日は、おかげさまで涼しく、ありがたい限りでした。

模擬店の販売は午後3時から開始というところでしたが、時間前に数組のお客様がいらしてくださり、ありがたいことでした。

お客様方とのやり取りは楽しく、特に子供達とのやり取りには、ほほえましいものがありました。何回も見に来てくれるものの、なかなか決まらず、とうとうほしいものを手に入れて帰った子供さん。また、パパときて、かわいいピンクのバックをおねだりして帰って行かれた子供さん。今思い出すと楽しいワンシーンでした。来年も手芸品をそろえて参加の予定ですので、ご来店をお待ちしています。

◎手作り品の製作に参加ください

NPOの手芸仲間は、日限山荘で手作り品の製作をしています。上手・下手は関係なく仲間と形や配色などを相談しながら、楽しく製作していますので、ご興味のある方、ぜひご参加ください。お待ちしております。ご連絡先は当事務所まで。

お知らせ

日限山荘の昼食会は、8月中はお休みです。9月2日(金曜日)からは通常通り毎週 火曜日と金曜日に昼食を用意してお待ちしておりますので、ぜひご参加ください。

対談・家族が認知症になったら？

「家族が認知症になったら？」という心配から、勉強のため大手新聞社の講演会に参加した当会の藤井理事と実際に現場で認知症の方の介護に携わっている一柳理事の対談を2回にわたって連載します。

藤井：認知症というのは記憶力・認識力・判断力・推理力などの低下によってもたらされる生活障害だと聞いてきましたが、これらは程度の差こそあれ、歳をとれば誰にでも出てくる症状だと思いますが…

一柳：その通りです。ですから、最初のうちはご家族も「おじいちゃん、この頃、物忘れがひどくなったねえ」くらいにしか思っています。

藤井：例えば、食事の直後に今食べたことを忘れたり、自分のしたことを全く記憶していないようになったら、要注意だそうですね。

一柳：ただし、そのとき家族として気をつけなければいけないことがあります。認知症の方の場合、家族や身近な人から物忘れを指摘されると逆上してしまい、かえって認知症が悪化してしまうこともあります。

藤井：自分にとって不利なことは認めないのも認知症の特徴だそうですね。でも、こうしたことは性格によってかなり違うんじゃないですか。

一柳：私の経験からいうと、几帳面な性格の人や細かいところにこだわる方で急速に記憶力が衰えた方は「要注意」ですね。

藤井：講演会では、記憶力は低下しても、感情は残像のように残るので、認知症の方に対しては、ほめたり感謝したり、共感して「良かったわね」などと相づちをうったり、たとえウソでも「私が間違っていた」と謝ることも、家族にとって大事なことだと説明していました。

一柳：それは家族だけではなく、介護の現場でも当てはまります。たまに認知症のご家族の方から「ヘルパーの応対態度がいい加減だ」と言われることがあります。否定や無用な説得は、かえってこだわりを強める結果になってしまいます。

藤井：でも、いざ自分の家族が認知症だと分かると、なかなかそうするのは難しいんじゃないかな。講演会でも、新聞やテレビで話題になったアニメ「ドラえもん」の声優で有名な女優の大山のぶ代さんを介護されている夫の砂川啓介さん(NHK初代体操のお兄さん)が、「妻の発病当初は腹が立つことしきりで、なんでこんなことができないんだよ、と怒鳴ってばかりいた」と話していました。

一柳：確かにそうですね。実は、ご家族にとってもっと難しいことがあります。

藤井：どんなことですか。

一柳：それは認知症の患者さんを早めに専門医の診察を受けさせることです。認知症の方は自分が認知症だとは認めようとしません。下手に対応するとかえって病状が進んでしまいます。語弊がありますが、場合によっては上手にウソをついて病院に連れて行くことになりませんが、その前提として、認知症の方ご本人とご家族や身近な方との信頼関係を築くことが肝心です。次号でそれについてお話ししましょう。

(以下次号)

【NPO総ぐるみ福祉の会からのお知らせ】

◎健康体操の予定日：9月9日、9月23日(日限山荘) ◎「総ぐるみ Café」の予定日：9月7日、9月21日(事務所)
◎マッサージの予定日：9月2日、9月16日、9月30日(日限山荘)